

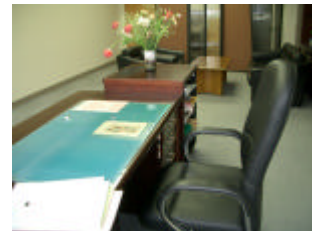
就任から 1 ヶ月

人間文化研究科長・人文社会学部長に就任して 1 ヶ月になる。短いようで、じつに長い 1 ヶ月でもあった。1 月下旬の教授会で選出されて、覚悟は決めていたものの、やはり大変な「職責」である。

写真は学部長室である。広々とした部屋に大きな机とソファがおかれている。ここに居ても、どうも落ち着かない。なるべくドアを半開きにして、「決済文書」のハンコを捺したりしている。6 月からは電子決済でハンコは減るようだが、それにしても目を通す書類の多さには驚かされる。



学部長になったといっても、あまり実感はない。入学式の時に前列に座って頭を下げたこと、教授会で議長をつとめたこと、研究科長などによる運営会議に参加したこと、評議会での席が替わったことなどが記憶に残るぐらいだ。それでも



緊張の毎日である。緊張のせい、最初の教授会の前日に持病の腰痛となり、2 回目の教授会の前日まで滅多にないような歯痛に悩まされた。痛々しい船出であり、先が思いやられる。

さて、名古屋市立大学は 2 年後の法人化をめざして、作業が急ピッチで進められている。昨今の今頃とは「状況」が一変した。この 4 月からは国立大学が法人化され、公立大学でも東京都立や横浜市立、大阪府立などで法人化が具体化されつつある。公立大学が「効率」大学になりはしないかと心配する向きもあるが、時代の「流れ」として、わが大学も法人化に向けて動き出した。

法人化にむけた準備期間である 2 年間に学部長をつとめることになる。大変な時になったもので、課題の多さに身のすくむ思いだ。3 月から法人化準備委員会を立ち上げ、徐々に議論を進めている。9 月までには一定の「結論」を出す必要があり、時間との勝負だ。でも拙速は禁物だ。評議会の懇親会の席でも述べたが、大胆かつ慎重な検討こそ大切であり、サステイナブルな学部・研究科づくりをめざしたい。2 回の教授会は議題や体調不良も影響して、2 時間程度で終了できた。喜んでいる先生も多そうだが、これから夏から秋にかけて議論が本格化するわけで、教授会の時間もどうなることやら。

(5 月 1 日 記)